

## 問題【国語】

次の和歌の下線部を訳しなさい。

くらべこし 振り分け髪も 肩過ぎぬ  
君ならずして 誰か上ぐべき

## 豆知識 雑学コラム

### 平安時代の成人儀式は？

1月11日は成人の日でした。皆さんにとって、成人する、大人になるのはどんな時でしょうか？ 現代の日本では、選挙に投票できるようになったら、成人式を迎えたらなど、大人と子どもを分けるいろいろな節目を通して大人になっていきますね。では、平安時代はどうだったのか見ていきましょう。

平安時代の子どもと大人の間の大きな違いの一つは、髪型や衣装などの見た目でした。平安時代、貴族の男子は14、15歳ごろに「元服」の儀を行なって、大人となりました。元服の儀では、髪型と衣装を大人のものに改めて、頭に「冠」をかぶりしました。このことから男子が成人することを「<sup>うひかうぶり</sup>初冠す（初めて冠をする）」と言います。女子の場合は13歳ごろに「<sup>もぎき</sup>裳着」の儀を行うことで大人となりました。裳着の儀では、大人の女性の正装である「裳」を着けて、左右に分けて垂らしてある髪（振り分け髪）を結い上げる「髪上げ」を行いました。そのため、女子が成人することを「裳着す（裳を着せる）」や「上ぐ（髪を結い上げる）」と言います。

さて、今回の問題の和歌は伊勢物語に出てくる和歌で、幼なじみの男からの求婚に対して、女が返した和歌です。意味は「小さいころ、長さを比べた私の振り分け髪も肩を過ぎるくらい伸びました。あなた以外の、誰が髪上げにふさわしいでしょうか（いや、あなたが私の髪上げをするべきです）。」です。平安時代の女性は成人とともに結婚適齢期として扱われるため、髪上げをして結婚しましょうという和歌になっているのですね。

時代とともに成人式の形も変化しています。特に今年は成人式がコロナ禍で延期になるなど大きく変化していく年です。新成人の皆さんには、こういう時代らしい成人式をしてほしいものですね。

## 【解答】

髪を結い上げる